令和5年度

鳴門西学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①「基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実」
②「学校と家庭との連携による生活・学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
吉田　真由美	校長・教頭 低学年推進員　吉田　真由美　教務主任　天野　久美子 中学年推進員　人権教育主事　高麗　裕 高学年推進員　研修主任　佐伯玲子

校長

内田　洋一

【各校の取組状況の把握について】

・指導技術や取組を共有できる研修（授業研究・グループトーク等）を行う。
・学校評価やチェックシートなどを活用し，定期的に取組状況を把握する機会をもつ。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

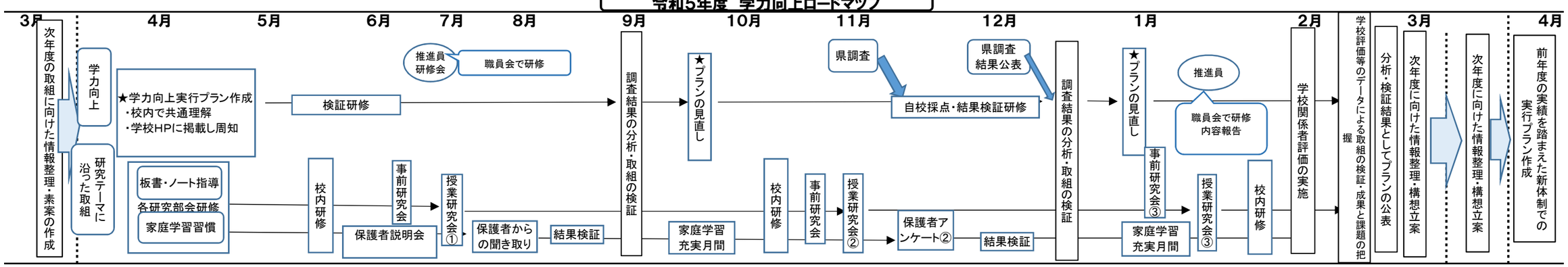
(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算などについては，ある程度の定着が見られる。読書に興味・関心をもつ児童が多い。 ●学力の二極化傾向が見られる。読んだり書いたりする習慣が十分身に付いていない。語彙力・聞く力に課題がある。	①国語・算数の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ②文章の内容を正しく読み取ったり，要点を抑えて話を聞いたりするとともに，主述の整った文章を書くことができる。	①よいノートや日記の紹介等，モデルを示して児童の書く意欲を高め，板書やノート指導を充実させることで学力の定着を目指す。 ②漢字・計算や視写，読書の時間を設けて繰り返し学習させ，定期的に小テストを行うことで基礎学力の定着を培う。 ③発達段階に合わせ学習検定を行い，表彰することで，児童の学習意欲を向上させる。 ④朝学習を利用し，算数・国語の基礎基本の定着を図る。		①良いノートを提示して称賛したり、・朝学習時間を利用して、繰り返し練習（漢字・計算）をしたりすることで習熟度が高まった。 ②小テストや確認テストで、児童の習熟度を確認しながら学習を進めることにより、確実な指導ができた。 ③表彰等の取り組みを、学校全体で行うことはできなかったが、各学級で学習状況や習熟度を称賛しながら指導を行った。 ④朝学習（15分）を、計算・漢字・コグトレなどの学習で充実させることができた。	・「良いノート」の共有の仕方を、校内で統一する。 ・朝学習時間の使い方を校内で確認し合い、充実した学習時間とする。 ・朝学習では、視写、音読、読書、スピーチなどをバランス良く実施する。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○体験活動を好み，意欲的に活動できる。調べ学習や目標が明確で見通しのつく課題には安心して取り組み，思ったことを素直に発表できる児童が多い。 ●友達の意見を聞いて，自分の意見と比べたり自分の考えを整理したりして思考を深めることが難しい。	①調べたり体験したりした情報を整理し，話したり書いたりすることで，自分の考えを自信をもって相手に伝えることができる。 ②自分の考えと比べながら，相手の意見を聞くことができる。 ③タブレット端末を効果的に活用することができる。	①発展的な学習や多様な発表形式の授業を実践し，振り返りを行うことで自らの成長を確認する。 ②自力解決や，ペア・グループ学習の時間を充実させ、自ら学び思考し表現する力を養う。 ③出前授業や校外学習など体験的な学習を取り入れ，五感を通して豊かな学びを習得させる。 ④スピーチや発表の時間を確保し，話の構成力を高める。 ⑤係活動や委員会活動を活性化させ，自主的・実践的な態度を育てる。		①学習の成果を、他学年への発表や交流を行うことで、意欲をもって取り組むことができた。 ②タブレットや図書室の本を利用した調べ学習に、楽しんで取り組んでいた。 ③出前授業等を十分に活動し、体験的な学習を行った。その中では、五感を通した豊かな学びを得たり、その学びや感想を文章にして表現したりすることができた。	・高学年では、学級にとどまらず大きな集団での発表の場を設けて行く。 ・決められた仕事をすることはもちろん、自主的に活動できるように場の設定や環境整備をする。 ・体験活動後の振り返り（言葉）や、スピーチ発表の場を多く取り入れ、自分の考えを相手に伝える力や聞く力を育てていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○家庭学習の習慣が定着してきた。与えられた課題については真面目に取り組む児童が多い。 ●学習用具の準備・学習態度など，生活・学習習慣の定着が十分でない児童がいる。難しいことや疑問に思ったことを追究しようとする意欲が乏しい。	①学習の構えができている。 ②家庭学習を自主的に行い，問題解決に進んで取り組むことができる。 ③多様なジャンルの本を選んで読んでいる。	①家庭学習の手立てを周知し，学習環境を整えることで集中力を高める。 ②自主学習の仕方やノートの使い方を工夫させることで理解を深めさせる。 ③タブレットを活用し主体的な調べ学習を行わせることで，知識を広げ深めさせる。 ④明確な場面設定と活動目標の提示をすることで，学ぶ意欲を高める。 ⑤ICT支援員と連携し，低学年でのローマ字入力を推奨することでタブレットの活用を進めていく。	・個別懇談の機会や電話連絡等を利用して、現在の学習の様子やこれからの家庭学習について話し合う。	①全学年で「家庭学習の手引き」を配布し、保護者に対しても学習することの大切さを周知した。 ②自主学習ノートの取り組みを学級で共有することによって、励みになったり幅広い知識に触れたりすることができた。 ③隙間時間を有効に活用して、学力の補充ができた。	・ICT活用学習と、これまでのアナログ的学習の有効性を見極め、効果的な学習方法を検討していく。 ・ICT支援員との連携を深め、教師のスキルアップを含めた教材研究に努める。

令和5年度　学力向上ロードマップ